



久賀写真展

写真でたどる故郷の風景

明治以来、久賀には街並みを写した写真が数多く残されています。これらの写真を展示し、時代ごとの変化や古写真と現在の同場所の比較、交通の移り変わりを紹介しています。



【写真を解説する古賀瑞枝学校員】 【久賀本通を行くバス 覚法寺前付近】

現在は枯れてしまった御幸松の在りし日の姿、通学生で賑わうバス停や、飲食店が立ち並んだ街並み。

古い写真は今では郷愁を感じさせます。しかし、街が変わっていく様子からは、当時の人々が未来へ託した希望を読み取ることができます。

友人や家族と一緒にご来場いただければ、会話もよりいっそう弾むことでしょう。この機会に、ちよつとだけ昔に思いをはせ、古写

真の世界をお楽しみください。

期間：12月26日（水）まで／時間：9時～16時

入場無料／休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

場所：八幡生涯学習のむら 学びの間

■ギャラリートーク（学芸員による展示解説）

日時：11月18日（日）／14時開始／申込不要

お問い合わせ：0820・72・2601

「ひょうたん」が

繫ぐハワイと大島



日本ハワイ移民資料館

特別に暑かった今年の夏、資料館の上の畑の棚には、青空に映え、たくさんのかぼちゃがぶら下がっていました。この瓢箪たちは、サタフラの名物司



会者トミー米澤さんが種まきから棚づくりまで一人で丹精込めて育て上げたものです。

大きくなった実は9月

に収穫をし、種を抜き、乾燥・色付け・艶出しの工程を経て、フラで使われる楽器「イブ」に変身させるそうです。イブとは、ハワイ語で「ひょうたん」という意味です。楽器の形によって「イブヘケ」と「イブヘケ・オレ」の2種類があります。

この夏休み、当館ではトミー米澤さんの「イブづくりワークショップ」を開催しました。遠く北九州から参加された親子4人。下絵描き・色付け・艶出し・乾燥と慣れない手つきでしたが、真剣に取り組み、自分だけのオリジナルイブが完成。喜びもひとしお、大事に持って帰られました。

一つ一つ形の違う「イブ」。

奏でられる音もきつと自分の音になるので

しょう。全国から集まるサタフラダンサー達。来年は是非、周防大島産のオリジナル「イブ」でフラを踊らしてほしいかな！



※イブワークショップに興味のある方はトミー米澤氏に直接ご連絡ください。

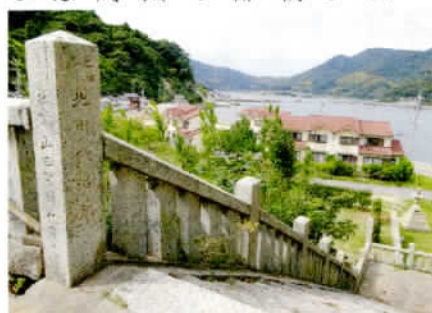
（連絡先：090・1337・6165）

明治150年
連続講座

島内の史跡をテーマに
最終回を開催

9月29日に第三回目の「周防大島に残る出稼ぎ・移民の史跡」と題した講座を実施しました（会場：東和総合センター）。宮本常一記念館の高木泰伸学芸員が、ボランティアの地域交流員と一緒に巡った神社・仏閣の石造物や絵馬を中心に紹介。出稼ぎが盛んであったこの地で、明治以降に周防大島出身者が海外へ雄飛した姿を参加者とともに見ていきました。

今回はハワイやカリフォルニア・カナダの北米、さらに朝鮮半島、中国東北部やフィリピンなどのアジア地域への進出についても言及。周防大島の史跡からは近代日本の日本人の活動範囲がくつきりと見えてくる、近代史を考える上で貴重な資料だと指摘されました。参加者からは、出稼ぎ・移民の資料は個人も持っていて島内にも数多くあるはずだ、ぜひ協力して調査を進めていきたいとの声も聞かれました。



【写真＝沖家室島・蛭子神社の玉垣には世界各地からの寄進者名前がある】

明治150年を期して実施した全3回の講座では、「世界のなかの近代日本と周防大島」をテーマに掲げました。明治という時代は日本が世界へと漕ぎだしていった時代です。周防大島はその先進地でした。これをきっかけに、国際化が進む現代だからこそ、先人たちの足跡に今一度思いをめぐらせてみてはいかがでしょうか。

山口・周防大島と ハワイとの絆

学
生
レ
イ
て
大
島
周
防
に
山口
大
学
研
修

山口大学では、学生自身が設定した課題や目標を、自ら組織したチームで協力して取り組む課題解決型学習（PBL）を採用して、地域と連携した教育活動を展開されています。日本ハワイ移民資料館もその教育プログラムに協力しています。

今回、PBL周防大島のグループ3名が、9月にハワイ研修（オアフ島、カウアイ島）に行かれました。研修では、①現代に息づく日系移民の歴史や文化を学ぶ、②移民の歴史をハワイの歴史やハワイアンからの視点から学ぶ、③山口や周防大島とハワイのつながりを感じるこの3点を主な課題とされていました。早速、研修の感想が送られてきましたのでご紹介いたします。



【カウアイ山口県人会のホストファミリーと共に】

●今回の滞在では、多くの日系人の方々とお話をすることができました。会話の中で、「おせち」「ぬか漬け」などの日本語や、「すいい（酸っぱい）」「せんない」などの方言がたくさん使われていました。そして話をする人々の雰囲気、習慣なども日本に近いように感じました。

また私たちが山口から来たことを伝えると、初対面であるにも関わらず、まるで自分の孫のように接してくださり、祖父母と会話をしているような懐かしさを覚えました。

特に印象に残ったのが「OKAGESAM」

「ADE」の精神です。これは、プランテーションで労働をしていた当時の日本人が大切にしていたものと言われています。この精神が今でも日系の方々の中に受け継がれ、大切にされ続けているからこそ、私たちを温かい気持ちにさせてくれるのだと感じました。今回の滞在での出会いは私にとって貴重なものとなりました。おかげさまで。

（山口大学国際総合科学部4年 久富由美）

イベントひろば

周防大島町陸上競技場・総合体育館

第5回サザン・セト大島周防大島町 長杯 高校サッカーフェスティバル

山口県内をはじめ西日本各地から全国大会常連校を招聘します。周防大島町内の高校生サッカー部の強化、またサッカーに関わる子ども達が高校生の高いレベルの試合を観戦することで、更なる競争力やモチベーションの向上を図る目的で開催します。レベルの高いプレーを間近で見られる機会ですので、ぜひ観戦にお越しください！



【日程】平成31年1月12日（土）、13日（日）、14日（月・祝）3日間

【会場】長浦スポーツ海浜スクエア／周防大島町陸上競技場／大島商船高等専門学校

※入場無料

【参加校】決定後HPにて公開します

八幡生涯学習のむら

古文書講座を開催中

初心者の方も大歓迎です。一緒に古文書の世界を楽しみましょう。

日程…11月17日、平成31年1月12日、3月9日、いずれも土曜日
時間…10時～11時30分



講師…古賀瑞枝（八幡生涯学習のむら学芸員）

場所…八幡生涯学習のむら ふれあいの間
参加費…各回100円（資料代）

問い合わせ…0820・72・2601

宮本常一記念館

地域交流員企画「今年の山行と思い 出の山の写真展示」

全国の山を訪ねる舩田良樹さんが登山の魅力を紹介します。

「老体に鞭打って「アケボノツツジ」「ミヤマキリシマ」「チングルマなど高山の花」を求めて山を歩きました。その思い出の山の写真や登山用具などを展示します」（舩田）
期間…11月23日（金）～12月9日
会場…記念館研修室／10時～18時／入場無料

ダイガラ白を使った餅つき体験

石臼引き黄粉も好評の体験会。家族での参加も大歓迎です。

日時…平成31年1月14日（月・祝）10時～13時

会場…体験学習室／少雨実施／参加費無料

※エプロン、三角巾、マスク持参／餅がなくなり次第終了

問い合わせ…0820・78・2514

暮らしの モノ語り スシガタ

六万点の民具から…

押し寿司をつくる道具。人参や椎茸を具とした酢飯を成型するための木製の枠。寿司はハレの日の食事なので、縁起のいい扇型や、華やかさを演出する花形のものがある。その他に正方形のものや、三つの型枠が一緒になった横長のものもあり、大きさも様々である。

年中行事、人生行事には欠かせない寿司は、もと自家製でそれぞれの家の形、味があつた。周防大島島内では、炒って粉末にしたイリコやアナゴの骨を寿司酢に入れる家もある。



寿司といえば江戸前の握り寿司がポピュラーになっているが、かつては押し寿司がハレの日のご馳走だった。だからこの家にもスシガタがあつた。具も野菜を基本に、錦糸卵やタイなどの白身魚の酢漬けを乗せる場合もある。彩りにエビや緑の葉物を使う家もある。具を切って、まぜ合わせ、酢飯を作り、冷やして、木枠で固めて、盛り付ける。親類縁者の集まる宴席ではその数も20、30になる。手間のかかる押し寿司は、それだけに祝う人を思う家族の心がこもっていた。だからこそ人の温かみを感じる道具の一つなのだろう。（宮本常一記念館）